

- 章の目標
- ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。

・神経系と内分泌系による調節について、観察、実験などを通して探究し、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして表現する。

・情報の伝達に関する事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

■章の観点別評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
神経系と内分泌系による調節にについて、情報の伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	情報の伝達について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	情報の伝達に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

主な学習活動		時間	ページ	重点	記録	評価の観点と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1 節 体内環境								
Let's Start! ・ヒトの体温の例から、気温の異なる環境下でも、体温が一定の範囲内に収まっていることに気づく。 A 体内環境をつくる体液 ・体内環境と体液の関係について理解する。 <コラム>体の中の体外環境 ・消化管や気管は体内にありながら、その内腔が外界との境界であることから体外環境にとして分類されることを理解する。 やってみよう 体重に占める体液の割合を調べる ・体液の割合について調べる <コラム>ヒトの体温調節は優れもの ・さまざまな動物の体温と気温の関係のグラフより、ヒトの体温調節機構の特徴を見いだして理解する。 B 体内環境を維持するしくみ ・ヒトの体内環境を一定に保とうとする調節のしくみを理解する。		2	76～79	知		【知技】 体外環境と体内環境、体液の関係について理解している。体内での情報伝達の経路として、神経系・循環系・内分泌系があり、体内環境はさまざまな器官のはたらきによって保たれていることを理解している。 [発言分析・記述分析]	細胞を取り巻く環境を体内環境といい、体液がその役割を担っていること、その体内環境が神経系と内分泌系により維持されていることを理解している。	Let's start や実体験をもとに、暑いときや寒いときに身体に起きる反応について考えさせ、その反応がどのような役割を果たしているのかを考えるよう助言する。
2 節 神経系による情報伝達								
Let's Start! ・空腹時における不随意に体に起こる反応の例から、無意識に体内環境が調節されていることに気づく。 実習 7 運動の前後の体の変化 ・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだす。 A 神経系 ・神経系の構成を知る。		3	80～85	知	○	【知技】 神経系の構成や情報伝達のしくみについて理解している。体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解している。脳の構造やおもなはたらきについて理解している。 [発言分析・記述分析]	情報の伝達が神経細胞（ニューロン）からなる神経系によって行われており、体内環境の維持には自律神経系が関わっていることを理解している。また、自律神経系は交感神経と副交感神経からできており、その働きは拮抗的であることを見いだして理解している。	図 5（作用と分布）を確認させ、交感神経と副交感神経が各器官に分布していることや働きが拮抗的であることを確認させる。

主な学習活動		時間	ページ 教科書	重点	記録	評価の観点と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て				
B 自律神経系による調節 ・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連付けて理解する。 やってみよう 緊張とリラックスについて考える ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考え説明する。 やってみよう 実習7を振り返る ・交感神経と副交感神経の違いについて神経伝達物質の違いに着目して理解を深める。 やってみよう 日常生活とのつながりを話し合う ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考える。 C 脳の構造とはたらき ・脳の構造とおもなはたらきについて知る。 まとめてみよう 神経系を図で整理 ・ここまで学習した用語を使って、神経系を図で整理する。 <コラム>脳死について ・脳死をめぐる見解について、さまざまな立場の人の意見を調べ、自分の考えを深める。			思	○	【思考】 実習7の運動の前後の呼吸数や脈拍数などの体の変化から、体には体内環境の変化という情報を伝達する経路があることに気づき、考察している。 [発言分析・記述分析]	運動の前後の呼吸数や脈拍数の変化、及び運動した部位と変化が生じた部位の間の情報伝達の経路について表現している。また、それが体内環境の維持にどのように影響するか表現している。	運動の前後の呼吸数や脈拍数がどのように変化したか表にまとめ分析するよう助言する。また、運動を行っても呼吸数や脈拍数に変化しなかったら、どのような状態になるかを考えるよう助言する。					
					【態度】 実習7の結果を主体的に考察して表現しようとしている。 [発言分析・記述分析]	運動の前後の呼吸数と脈拍数の計測が適切に行えるよう、実験を行う前に計測方法について検討し、複数回の実験（もしくは数人の実験）を行い、結果を分析している。	正しい計測ができるよう準備を行ってから実験を開始するよう助言するとともに、実験回ごとのばらつきをなくすための工夫をするように助言する。					
						【態度】 神経系について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。 [記述分析]	学習した用語を用いてコンセプトマップを作成している。また、他者のコンセプトマップを確認し、自身のコンセプトマップを修正している。	教科書やノート、プリント等を確認させ、学んだ内容を思い出しながら、関連する語句をつなげるように助言する。また、他者の記載内容を確認して、作成方法を理解させる。				
3 節 内分泌系による情報伝達												
Let's Start! ・日常のコミュニケーション手段の例から、情報伝達には特徴に合わせたさまざまな種類があることに気づく。 A ホルモンによる調節 ・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。 B ホルモンの分泌量の調節 ・間脳の視床下部がホルモン分泌の中核として機能することを理解する。 ・ホルモンの分泌量がフィードバックによって調節されていることを理解する。 まとめてみよう 内分泌系を図で整理 ・ここまで学習した用語を使って、内分泌系を図で整理する。	2	86～89	知		【知技】 内分泌腺や分泌されるホルモン、その作用について理解している。ホルモンの受容や機能するしくみについて理解している。フィードバックによって、ホルモンの分泌量が調節されていることを理解している。 [発言分析・記述分析]	内分泌腺から分泌されるホルモンが血流により標的細胞の受容体に結合し、標的細胞（標的器官）の働きを調節することを理解している。また、ホルモンの分泌量がフィードバック調節されることを理解している。	図1（ホルモンの分泌と運搬）の図を確認させ、内分泌腺からホルモンが分泌されること、分泌されたホルモンは血流で運ばれること、血流で運ばれたホルモンが標的細胞の受容体に受け取られることを段階的に考えさせる。					
					【態度】 内分泌系について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。 [記述分析]	学習した用語を用いてコンセプトマップを作成している。また、他者のコンセプトマップを確認し、自身のコンセプトマップを修正している。	教科書やノート、プリント等を確認させ、学んだ内容を思い出しながら、関連する語句をつなげるように助言する。また、他者の記載内容を確認して、作成方法を理解させる。					
4 節 血糖濃度の調節												
Let's Start! ・身近な商品のパッケージから血糖値とは何か考える。 実習8 血糖濃度の調節 ・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 A 血糖濃度を調節するしくみ ・血糖濃度の調節にかかわるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・インスリンの作用と糖尿病の関係について理解する。	2	90～97	思	○	【思考】 実習8の食事の前後における血糖濃度と、血中のインスリン濃度、グルカゴン濃度の経時的変化を示す資料から、血糖濃度の変化とインスリン、グルカゴンのはたらきとの関係に気づき考察している。 [発言分析・記述分析]	食事開始からの経過時間と血糖濃度の変化（作成するグラフ）、グルカゴン濃度、インスリン濃度の変化を表すグラフを読み取り、グルカゴンとインスリンの動きを見いだして表現している。	グラフを読み取ることができるようになるため、血糖濃度の変化とグルカゴン濃度、血糖濃度の変化とインスリン濃度に分けて、それぞれの変化について注目するよう助言する。また、他者の記載内容について気がつくことがないかを確認させる。					

主な学習活動	時間	ページ 教科書	重点	記録	評価の観点と方法		十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
まとめてみよう 血糖濃度の調節のしくみを図で整理 ・ここまで学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。 B 糖尿病とは やってみよう 患者数の推移と生活様式の変化を考える ・糖尿病の患者数の変化を、食事や移動手段の変化など生活と関連したデータをもとに考える。 <コラム>体温の調節 ・体温の調節機構について、関係する器官と支配のしくみを知る。 <特集>人体図鑑 ・人体の構造や各器官の役割について考える。			態	○	【態度】 実習 8 の結果を主体的に考察して表現しようとしている。 [発言分析・記述分析]		食事開始からの経過時間と血糖濃度の変化（作成するグラフ）、グルカゴン濃度、インスリン濃度の変化を表すグラフについて、単純な読み取り（数値の変化を表現するのみ）ではなく、変化から各ホルモンの働きについて考え、表現しようとしている。	数値の読み取り（数値の変化の表現）と読み取った内容から考えられることの表現との違いについて説明し、数値の変化から思考ができるよう助言する。
					【態度】 体内環境の調節について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。 [記述分析]		学習した用語を用いてコンセプトマップを作成している。また、他者のコンセプトマップを確認し、自身のコンセプトマップを修正している。	教科書やノート、プリント等を確認させ、学んだ内容を思い出しながら、関連する語句をつなげるように助言する。また、他者の記載内容を確認して、作成方法を理解させる。
			知	○	【知技】 血糖濃度の調節とホルモンのはたらきの関係を理解している。ホルモンと自律神経のはたらきによって体内環境が維持されていることを理解している。ホルモンのはたらきと糖尿病など身近な疾患との関係について理解している。体温の調節と関係する器官のはたらきについて理解している。 [発言分析・記述分析]		食事や運動により変化する血糖濃度は、自律神経系と内分泌系が協調して調節されていることを理解している。また、糖尿病患者が血糖濃度を下げることができない要因について見い出して理解している。	高血糖の時と、低血糖の時の反応を分けて、それぞれの調節について注目するように助言する。また、図の読み取りができるよう、図中の矢印の意味について説明する。健康な人と 2 型糖尿病患者の血糖値とインスリン濃度の変化について比較させ、2 型糖尿病の原因について考えさせる。
					【知技】 この章の学習内容について、基本的な知識を身に付けている。 [記述分析]		用語の確認とまとめ図の作成を的確に行っている。また、解答ができなかった部分について、学習内容を振り返っている。	わからない部分は模範解答を確認して、該当する教科書の部分を振り返るよう助言する。

重点・・・重点的に生徒の学習状況を確認する観点
記録・・・記録に残す観点